



読書 <研修センター所蔵>

センターだより「みち」も今年度最終号となりました。2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、一年を通して感染予防対策に追われ、さまざまな制約のもとでの一年でした。また、2 月には東日本大震災の余震が 10 年ぶりに発生して、大きな被害を受けた学校も見られました。心からお見舞いを申し上げます。

この 1 年間、教育研修センターの事業を活用していただきありがとうございました。次年度も積極的な活用をお願いいたします。

2 月に教育委員会主催で実施しました二つの事業を紹介します。

令和 2 年度須賀川市第 2 回授業づくり研修会

<2月18日>

須賀川市立第三小学校において、須賀川市第 2 回授業づくり研修会が実施されました。新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、会場校以外の先生の参加は見合わせての開催となりました。講師の秋田喜代美先生とはオンラインを通しての研修となりました。研究授業は、5 年生「体育」で「ボール運動」の授業でした。授業の中に、タブレットなど様々な学習ツールが活用されていました。また、福島県の子どもたちの運動能力低下の課題から開発された「運動身体づくりプログラム」を取り入れており、子どもたちがスムーズに活動している姿から、体育の中でいつも実施されている様子がうかがわれました。



<運動身体づくりプログラム>



<ソフトバレーボール>



<タブレットでの振り返り>

声が出ていて良かったよ。

棒立ちだったね。
もう少し低い姿勢がいいね。



<オンライン研修会の様子>

須賀川市の教育にいつもご指導をいただいている東京大学大学院教授秋田喜代美先生とのオンラインでの研修会でしたが、秋田先生の優しい雰囲気の中にも一方的な講話形式ではなく、参加者から積極的に意見を引き出し、画面ごしでも活発な意見交換がなされていました。研修会の詳しい内容については、後日、教育委員会から各学校に配付される報告書をご覧ください。

第2回 須賀川市学校地域保健連絡推進協議会の開催

須賀川三師会との連携強化！！



今年度も 2 月 25 日に須賀川医師会・須賀川歯科医師会・須賀川薬剤師会・市内小中代表養護教諭・教育委員会学校教育課・こども課で、須賀川市の子どもたちの健やかな身体の育成のための話し合いが持たれました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策、須賀川市の子どもたちの健康課題の肥満・視力低下・う歯についての対策、学校保健委員会・地域学校保健委員会の開催について等、各立場から積極的に意見が出されました。特に、今年度は、コロナ禍での健康診断であったために実施方法等にいくつかの課題が見られたので、今後の対応について話し合われました。来年度の健康診断の実施方法やその他の確認事項については、後日、教育委員会からお知らせが配付されますのでご覧ください。

今年度のセンター事業を振り返ってみました！！

各学校におかれましては、今年度も教育研修センターを活用していただきありがとうございました。5名のセンター職員からの「ひとことコラム」をお届けします。



教員として日々の業務に追われ、研修の意識が薄れてしまっているのではないのでしょうか？自分自身を振り返ってみても、研修への参加を面倒に感じ、できれば避けたいと思ったことも少なからずありました。しかし、すぐに役立つ研修内容はもちろんですが、あの時の研修が今になって役立っていると感じることもあります。今年度は、研修する期間が限られ、セミナー等が実施できませんでしたが、研修の意義を再確認していただき、来年度の教育研修センターの積極的活用をお願いします。（菊池）



「まだまだです。今日もいっぱいいっぱいでした」昨年と比べると、チョークの文字も子ども達に語りかける声の出し方も、しっかりしてきて、子ども達との関係も良好に築けるようになった2年目の先生の言葉です。伸びる教師は、謙虚な態度で人の話に耳を傾け、素直な心で言葉を受け止め、「ちゃんとした先生になりたい」という向上心を持っています。教師にゴールはありません。まだまだです。（添田）



好雪 片々 不落別処 こうせつ へんぺん べっしょにおちず
無造作に落ちているように見える雪も一夜明ければまんべんなく庭に積もっている。迷いながら、悔いながら進んでいる毎日、今を一生懸命に生きていけば、必ずそれぞれふさわしい場所にたどり着くことができるということを示唆してくれる言葉です。先生方が日々子どもたちのために動いている姿から、必ずや子どもたちもそれぞれにふさわしい場所に落ちつくのだなあそんな言葉を改めて感じた一年でした。（七海）



今年度から適応指導教室を担当しています。子どもたちの姿に驚かされる日々です。どの子も際立って輝く、優れた一面を持っているのです。授業を受けていないはずなのに、定期テストで、ある教科は満点を取る子。驚くほどの集中力を持つ子。スポーツを始めると、軽やかな動きで満面の笑みを見せる子。今は不登校。でも、他の子と変わらず、未来に大いなる可能性を秘めていることを日々感じています。（渡邊）



今年度、養護教諭対象にオープン保健指導！を実施しました。参加者の声を紹介します。

なかなか他校の養護教諭の先生の授業実践をみる機会がないので、とても良い機会でした。（途中省略）勉強になる点がたくさんありました。自分も授業提供をして他校の養護教諭の先生方から専門的な意見をいただきたいと思いました。



その他、養護教諭支援事業やすこやか教室支援、須賀川三師会との連携等を担当しました。各学校でのコロナ対策の様子を知ることができ、またその後の教育委員会としての対応にもつなげることができました。（湯田）

😊 笑いで免疫力アップ！！ 😊

新型コロナウイルスの感染症予防には、免疫力を高めておくことが大切です。笑いは免疫を高めることも研究で明らかになっており、医療でも活用されています。コロナ感染症の予防のためにマスクをかけた生活が強いられてしまいましたが、マスクをかけることで、子どもたちの表情が無表情になってしまったとも言われています。自分自身の健康管理だけでなく、子どもたちのためにも、学級経営の中にぜひ笑いを取り入れていきましょう。

笑い（1分間でやる気が出る146のヒントより）

心身の健康を増進させるには、ユーモアと笑いを生活に取り入れる必要がある。UCLA 医学部のノーマン・カズンズ教授は、エルドルフィンとアドレナリンの研究を通じて、楽しい気分であることが健康に大きな影響を及ぼすことを立証した。生活にユーモアを見出し笑うことは、エンドルフィンを増大させる。あなたは十分に笑っているだろうか。より多くの笑いを生活に取り入れ、楽しい気分になるように計画してみよう。

研修センターでは、教育問題はもとより、ジェンダー、時事問題など様々な話題を取り上げ、活発にディスカッションがなされています。しかし、最後はいつも、「笑い」で終わります。

